

## 木津川市立図書館協議会 会議経過要旨

会議名	平成30年度第1回木津川市立図書館協議会						
日時	平成30年6月1日(金) 午後1時30分～3時50分	場所	木津川市立中央図書館 2階 視聴覚室				
出席者	委員 <input checked="" type="checkbox"/> 出席 <input type="checkbox"/> 欠席	■中下和男会長 ■池田加津子副会長 ■河瀬敦子委員 ■下浦悦子委員 ■西岡清美委員 ■福森真知委員 ■松本也寿子委員 □山本欽一委員 ■渡邊美秀子委員					
事務局	森永教育長、竹本教育部長、西村社会教育課長、大内図書館長、山岡中央図書館係長、池田中央図書館担当係長、森井加茂図書館主査、向井山城図書館専門員、宮浦中央図書館主査						
議題	1 開会 2 教育長あいさつ 3 自己紹介(各委員・事務局) 4 役員選出 5 新会長 あいさつ 6 議題 ・図書館運営について						
会議結果要旨	1 開会 ・開会宣言 委員9名中、8名の出席により、会議が成立していることを確認した。 2 教育長あいさつ 3 自己紹介(各委員・事務局) 4 役員選出 ・会長及び副会長の選出 図書館協議会運営規則第3条に基づき、委員の互選により次のとおり選出した。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>会長</td> <td>中下 和男</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>池田 加津子</td> </tr> </table> 5 新会長 あいさつ 6 議題 図書館運営について 中下会長が議長となり、議事を進行した。 ・図書館運営について …事務局より資料に基づき説明した。 <b>【主な質疑・応答】</b> 委員=奈良市立北部図書館の利用について、協定の締結は30年1月12日という事になっている。図書館協議会最終が3月何日かにあったが、その時何の言葉も聞いてなく、私が知ったのは議会だよりで知つてびっくりした。前回の協議会で例え一言でもお知らせいただいたら			会長	中下 和男	副会長	池田 加津子
会長	中下 和男						
副会長	池田 加津子						

驚かなかった。また、その前の議会の時には図書館の開館時間についてという話も出ていた。この協議会の時にはお話をいただけると思っていたが、どうなっているか。

館長＝その時点で進捗がそこまでに至ってなかったと思う。

教育長＝館長が4月から赴任しているので私の方からお答えする。包括協定の新聞報道がされた。包括協定というのは、全体的に、災害の問題等と一緒に協調してやっていきましょうというものであり、具体的には奈良市立北部図書館の話を事務的に進めていた。その段階ではその事を具体的の形として挙げられる状況ではなかった。ただ、おっしゃるように、こんな動きもありますよぐらいは言っても良かったのかなというのは、反省する。

委員＝また、利用時間の統一というような事があって、その話はどうなっているか。

教育長＝議会の中でも開館時間の違いについて質問は出ていた。その事について前回の協議会でも、例えば利用時間を統一することがサービスの向上になるのか、例えば利用時間が違うことで他所の図書館を利用できるとか、今まで利用されている方が不便になる事は無いか、そういった意向調査をしていくこうというような話があったことは聞いています。今回、非常に大きな話として、奈良市立北部図書館の件と移動図書館の件を議題にさせていただいた。引き続き重要な事は、図書館の時間の問題、それから子ども、幼児の読み聞かせというような子どもとの関係、高齢者へのサービスとか、サービス向上については、常に議題にしていくべき事だと思っている。

委員＝イオン高の原の図書館の話はどうなっているか。

部長＝イオン自体のスペースを増やすという計画 자체が一時ストップしているという情報しか、こちらの方には聞いていない。奈良市の図書館を使わせていただける事になったという事は、市の図書館の住民サービス全体の向上になると思い、本日、皆様にお声かけさせていただいている。

会長＝我々、協議会として意見を述べるという事もあるし、経過的にそういったものを出せる範囲内で内部の方で煮詰まっておれば、事前にこの中で教えていただけるものについては、教えていただけたらありがたい。

委員＝なぜか奈良市立北部図書館の利用なんて、びっくりした。市をまたいでの利用となったら色々大変な事も出てくるのではないか。木津川市の図書館の本をそこに返却してもいいのかとか、そういう問題もこれから出てくるとは思う。利用者が利用しやすいようにしていただきたい。

館長＝より良い利用ができるように努めていきたい。

会長＝今後、運営していく中で色々な課題が、細かい点も含めて出てくると思うが、我々にも意見を求めていただくような機会があれば、出していただきたい。

委員＝私たち図書館協議会委員という看板を背中に背負っているが、もう少し事前に、議会に出す前に、委員という役割に振っていただきてもいいのではないかと。そうしたら私たちの認識も違うと思う。綿密に私たちの意見を取り入れながら、進めていっていただきたい。移動図書館は木津地域のみの運行なので、加茂も走ってほしいと思っていたが、これだけ財政難だったら、無理だと思う。いっそ、廃止という提案に賛成して、奈良市立北部図書館を利用していただいた方がいいのかなど。

奈良市立北部図書館の入口、もう少し私たちがうまく車で入れるような、そういう事も考えていかれたらいいと思う。それにはまたお金がかかる。そしてそこに木津川市の職員が配置されるのか、それも心配。やはり職員がいて、ああ〇〇さんがいてるとか、そういう親しみ、図書館は仲間作りの場所。そういう配置も考えてほしい。

館長=今現在の検討の中ではあくまで施設を利用というスタンスにはなっている。この協定そのものに交流の意味もあるので、確かに職員の交流という面では、新たな気付きもあると思う。利用サービスの観点で、職員の資質向上という所は、もちろん必要。必ずそうするとは言えないが、取組としては一考が。

委員=奈良市立北部図書館の利用予算は、増加していくと思う。それを無駄にしないような図書館利用を。

館長=利用できるようになって本当に良かったなというお声をいただけるようにしていかなければ意味が無い。奈良市立北部図書館の細かい状況というものをまだ把握しきれていないが、1つ1つ課題をクリアしていくたい。

委員=図書館協議会でも見学に行かせていただきたい。木津川市の図書館と合わせて4館を周れたら、差が分かる。

委員=やはり図書館の見直しの時期が来たと思う。地域へのサービスの公平性という意味では、先ほど移動図書館、加茂町にも回ってほしいって意見があったように、山城町もやはり回ってほしいと思う。木津川市になった以上は、そういう観点から見直しをした場合、移動図書館の今の提案の方向は、私は賛成。奈良市立北部図書館は、11ページの所に153万9千円という高額が出ているが、現存するカードが使えるのかどうか。それと利用に係るその他の経費を分かる範囲で。それから木津川市は10冊まで借りられる。ところが、奈良市立北部図書館は5冊。こういうような差を、市民にどう知らせていくのか。差があつて、メリットとデメリットという部分で、奈良市立北部図書館に行ったらこういい所があるというようなものや、こういう活用をしてほしいというような広報的な部分が必要。地域によって行きにくい所がある。山城町からわざわざ行くのであれば、移動図書館とどこが変わるかなという辺りをPRしていかないと、メリットとして挙げられない。それからもう1つ、これだけの費用を使って、効果をどう出すかという辺り。年次計画で進む方向性について知らせてもらえると、委員としてついていきやすい。

会長=広報の方法について心配している委員もいる。我々委員に諮詢していただいたら、ある程度まとめる事もできる。図書館として変革の時だと思うので、必要であれば協議会を臨時でも開催して、少しでも密接に協議できる態勢を。

館長=まず費用面の話に触れさせていただくと、資料の中では3千枚の利用カードの作成という事で予算をとっている。カードについては、北部専用のカードをお作りいただくという形になる。もう1つ、その他の経費としては、実際利用にあたって、この機会により利用しやすい環境に整える事や、状況によっては奈良市側のシステムをいじる事もありえる。申し訳ないが細かい内訳まではいえないが、諸々の経費ということで予算立てをしている。これも、奈良市との調整の中で省かれる場合もあり、おまかなかん予算立てとなってるのが現状。

今後スケジュール的には、段階的に広報を通じ利用について色々と早い目のお知らせをしていきたい。特にメリットと言うのは、重要なポイント。ただ、メリットを整理途中と言う部分が幾分かある。良い点をできるだけ伝えていき利用しやすい状況を作っていくたいと思っている。

委員=木津西部地域で以前から奈良市立北部図書館の利用について要望があつたという事なので、差し当たって良かったんじやないかと思う。子どもたちにぜひ、楽しい話題を。これを機会に、広報を見て、子どもも見ようっていう気持ちになるぐらいのPRをしてもらいたい。なかなか県をまたがってというのは難しい。だから今がすごいチャンス。情報交換もできるし、人もアイデアも交換できる。人の行き来も物の行き来も、色々な感情や色々な思いの行き来もみんなして、木津は賑わっていた。大昔から木津は木が着くだけではなく、色々な情報もここに寄ってきた所。本当に頑張ってやってもらえた嬉しい。

副会長=委員の中でも地域性によって意見が変わると思う。ただ色々な形で書籍に関わってる方は、あそこに行くとあれがあるとかここに行くとあれがある、貸してもらえるということを把握している。木津川市の方でも奈良市立北部図書館には、あれがあるということで目指して行く方もいらっしゃると思う。たとえば紙芝居一つにしても、大型の紙芝居が奈良市立北部図書館にはたくさんある。大型の紙芝居は北部で借りてくるとか、意外とメリットは大きいと思う。各図書館でそれぞれの特徴を持っている。中央図書館も加茂も山城も、それぞれに特徴がある。今まで借りられなかった本が借りられるようになるという意味では、メリットを感じている。

館長=PRはほんとに重要だというふうに思っている。本日もいろんな良いポイントを教えていただいたので、それを捉えて丁寧な広報をしていきたい。

何が良いかっていうのは一概に言えないことがあるので、ニーズをしつかり捉えて何が良いかを検討し進めて行きたい。検討にあたっては、この協議会でお話させて頂いて、十分煮詰めた中で実行していきたい。まだ具体的には日取りは決まっていないが、要点を捉えたアンケートをとって今後の運営に生かして行きたい。

PRについても、これから北部との調整の中で十分に打ち合わせていきたい。

単なる図書館の利用というわけではなく、交流という部分でも取り組みは一応検討している。とくにサークルやボランティア、かかわっていたいている団体もあるので、そういう部分の奈良市との交流も図って行き、互いの図書館としての機能、学びの場としてよりよい充実したものとなるように互いに考えている。

委員=私は、移動図書館を毎回利用している。いつも子どもたちがいっぱい、低学年が多い。団体利用はそれぞれの小学校でこんなにたくさんあるというのを知ったし、月2回を楽しみに待ってる人もいることを感じた。子どもにも分かるように伝えてもらいたい。

委員=子どもにどう知らせていくのかという問題が難しい。

委員=学校の規則で、府外や市外は子どもだけで行けないという規制がある中で、やはりそこら辺がデメリットの部分。やっぱり安全面が優先。そういう部分は教育委員会としてどうするのか。現在移動図書館のメリットを感じてる方は、そこら辺をクリアしないと、比較して見ると思う。

委員=あるものが無くなるというのは。無いところから廃止しますって言われたらしようがないという意見は出てくるかもしれないけれど。

副会長=ほんとに廃止になるんであれば学校図書館に本を増やしていくであるとか、そういう方向性はできないか。

部長=学校には図書室があり、各学校毎年新しい本を置いている。もし現状としてまだ足らないということであればまた学校と協議して、移動図書館で子どもたちが借りたいと思っているような本が学校に無いのか、有る

けれども子どもたちの目につきにくいのかとかその辺は、学校の図書室の工夫はできるとは思う。

副会長＝今、学校図書室司書は常駐では無く、掛け持ちだったと思う。

部長＝はい。一週間毎で交代している。司書がいない時は地域の方がボランティアで来てくださっている。どういう風な本が子どもたちに人気があるのかという事も、学校でもシステム等で統計が取れると思う。そういう所を見て次の年にどういう本を買うのか決めていると思うが、子どもたちに足を運んでもらえるような学校の図書室作り、そういうサービスに力は入れさせていただけます。

副会長＝私も他県でそういう取組をされた事で子どもたちがすごく足を運ぶようになったという実例を何件か知っている。移動図書館が無い分、どこかで行きやすい図書室を。そういう事で成功している所もたくさんある。

委員＝小学生だけじゃなくて、中学・高校もある。もっと小さい子ども達、ブックファーストしてからの子ども達、それから高齢者も本に親しみたいと思っておられる。その辺が抜け落ちてしまう。

部長＝確かに色んな年齢層の方に本に親しんでいただけるためには、色々な年齢層の方を対象に、色々な場所を対象にという事が、できたらいいが、木津川市全体を効率的にどういう風にしたら一番良い形でさせていただけるかっていうのを、一点だけに集中する事で片一方が放つとかされてもいけないし、その辺は均等に公平にどうしたらいいかという事をまた考えさせていただきたい。

委員＝子どもに視点を当てる部分から言うと、学校の図書館の開館時間が限られてくる。司書がいる時なら活用できると思うが、司書を常駐するのはまた予算増えて無理なので、全体を見直して「これ」という物を出していかなければ、メリットが出ない。学校図書館を10時から5時までの幅広い活用をされてる所は、学校の図書館に施設というか地域連携の施設をちょっと借りて、空き教室で読めるようにされてる所もある。

部長＝学校も、一時は地域開放の方向性だったが、色々な事件があって、閉鎖の方向性に変わった部分がある。ただ地域と学校は常に連携を取っていく事が子どもたちにとっても良い環境。地域の方々も今元気な高齢者の方がたくさんおられるので、そういう方々の力を借りられるような何かを、社会教育と学校教育の協力の形で考えたい。

委員＝移動図書館で子どもたちが読書をすごく楽しんでるのを聞いて、もつたいないとは思うが、やはり地域が限定されてるというのが、公平性が保たれていないし、予算の関係もあるので、バスの廃止っていうのは賛成。でもバスの廃止の代わりに奈良市立北部図書館の利用を始めるのは違うと思う。使用の目的が違うと思うので。今回も奈良市立北部図書館の利用っていうのは、図書館の利用っていう事よりも前に地域連携っていう事が重要だから、地域連携の方に期待したい。奈良市のやり方で気付く事もあると思うので、それで木津川市がもっと発展していく事を期待したい。

だけどバスの年間の費用が300万円で、奈良市の初期費用が150万で、年間数百万円の予算という事は、予算削減ではなく増加してる所は、木津川市として、それはもう地域連携の方に重点を置いてるので図書館の予算は上がってもいいと思ってくださってるんだつたらいいけど、その代わりにもっと財政を減らせっていう事を図書館として言われたら、それは変だという感想。新しい本を買う予算を減らされてたりして。私たち、子どもたちにもっと本を読んでほしいと思っている人からしたら、いい事なんかなっていう疑問があるので、そこら辺はみなさんで私たちの期待に応えられる事をしていただく事を期待している。

会長＝ある面では三館をまず充実していくと、その中に学校とか園とか地域、

保護者、それとどういう風に連携していくか。今学校や園は読書に対して非常に教育委員会も力を入れていただいているように思う。かなり図書館の、特に中学校の読書推進運動も充実してきているように思う。いい時期なので、ぜひこの奈良市立北部図書館の広報を兼ねて、図書館のPRを。協議会の意見も限られたものになると思うが、この中でかなり大事な意見が出たと思う。その点をうまくまとめていただいて、いい方向に持っていってもらいたい。ある程度細部が固まって、また意見を聞いていただければ、もっといい意見がでると思う。十分に審議いただいたとは言えない点もあるかとは思うが、だいたい大筋で図書館運営については、事務局からの提案の形でいいんじゃないかと思う。

7 閉会 池田加津子副会長 挨拶